

沿岸各被災地の状況



岩手県大槌町の観光遊覧船「はまゆり」
5m以上はある民宿の屋上に鎮座する姿に改めて
津波の脅威を思い知らされる。船の撤去には大型
の機械が必要だが、それが通れる道路が無い。



大槌町を訪れた証拠写真
赤丸印内が「はまゆり」で、車を止めた箇所も津波
のガレキが打ち上げられた痕跡がありました。



震災から2か月がたっても遅々として進まない撤去
作業。怠慢ではなく、ガレキの置き場所・作業車両
が無いのです。あまりにも広範囲のため。



最新のデジカメは顔認証が主流ですが、それも善
し悪し。この方向に向けたら、3人の顔?を認証。も
ちろん人一人いません。



この道路から上に住む住人も被災者。家は無事でも
買い出しに行けません。歩いていける距離のお店
はすべて被災しているため、車が無いと生活が
成り立たないのです。



左の写真、赤丸部分の拡大
道路が袋小路のため、車や家が無事でも動きが取
れなくなってしまう。

【大槌町02】



大槌町の岸壁
左の建物は漁協事務所。三階建ての建物の屋上を超える津波が襲っている。



大槌町の岸壁
以前は海面から1~2メートルの高さにある岸壁が、ちょっとした波で海水が乗り越えてしまう。地盤が沈下してしまった状況。



大槌町の岸壁
岸壁の反対側にあるガソリンスタンド。壁や建物の中のものが全て流され、柱だけの状態に。



大槌町の防潮堤
岸壁の反対側、市街地よりに建てられた防潮堤(高さ5m以上)も簡単に破壊してしまう威力。



普代村防潮堤
高さ15mを超える防潮堤は、税金の無駄遣いと言われ続けていたが、今回の震災で一人の犠牲者も出さなかった。その堤防でも無傷ではなかった。



宮古市の漁港
引き波で自動車が通路の屋根部分に引っかかっている。この通路も大型トラックが通るため3.5m以上の高さがあるが。



唐丹町 小白浜漁港
 小さな集落のため、ガレキ撤去の機械も入っていない状況。後回しというより、圧倒的にガレキを片付ける大型機械が足りないのです。



唐丹町 小白浜漁港
 左側赤丸印内。こちらも壊れるはずがないと信じられていた防潮堤。防潮堤としては最新の構造なのですが、いともたやすく破壊しています。



宮古市 温泉施設「マース」
 見晴らしの良い海岸沿いの温泉施設も、津波被害をじかに受ける形となってしまいました。



宮古市内 住宅街に観光遊覧船
 念のためですが、遊覧船がいる場所は海ではなく住宅街のど真ん中です。



宮古市内
 被災の翌日。空の青さと対照的な商店街の様子。建物の破壊は免れましたが、このガレキは・・・



宮古市内
 街中のいたるところに漁船が流されてきました。車や家のガレキなど、ありとあらゆるものが街中に散乱しています。



宮古市内
電車も流されています。電車も大まかに見れば船と同じで、水に浮きやすい構造ですから頭では理解できても、実物を見れば・・・



宮古市内
鉄道のレールもあらぬ方向へ捻じ曲げられてしまいました。最初から川へ向かうルートとして存在していたかのように。